

第9回 十和地域まちづくり推進協議会 議事要旨

【日 時】令和5年8月29日（火）午後7時00分～9時00分

【出席者】松下敦委員、中平光高委員、田頭誠志委員、村井洋平委員、栗原あゆみ委員、鈴木幸代委員（欠席：森正和委員、松下洋平委員、伊賀守委員、中平良子委員）

【行政側】森副町長、富田十和地域振興局長、畦地町民生活課長、都築地域振興課係長、伊藤地域振興課主査 小笹にぎわい創出課課長、笹岡にぎわい創出課交流促進係長

【議事及び質疑応答】

1. 開会

●副町長挨拶

2. 議事

議事（1）四万十町観光交流拠点施設について

田頭誠志会長）四万十町の観光交流拠点施設について意見をいただきたいということなので、にぎわい創出課からまず説明をしていただきたい。

小笹課長）（資料に沿って説明）

田頭誠志会長）もう少し聞いてみたいことや、質問があればどうぞ。

松下敦委員）芝生の広場はすべて平地か。

笹岡係長）駐車場から仁井田川の方に向けて勾配をつける予定だが、基本的には平地。

松下敦委員）花を見やすくするには段差がある方が写真を撮りやすいかと思う。

栗原あゆみ委員）基本設計に書かれてあるファニチャーというのは、ベンチが設置されるのか。

笹岡係長）ちょっとした構造物で、そこに腰掛けて休憩したりもできるようなものを想定している。

栗原あゆみ委員）屋根がついた休憩できるポイントはテラス以外にあるのか。

笹岡係長）設計書に二か所ほどある東屋というものが、屋根付きのものとなる計画をしていて、広さは二畳ほどの予定。

田頭誠志会長）テラスは屋根ありか。

小笹課長）屋根あり。コミュニケーションスペースのような形で、寄り集まって休んだり話したりできるような場所として考えている。

栗原あゆみ委員）利用者のターゲット層は想定されているか。

笹岡係長）花が好きということであれば高年齢層になるが、広告費等をかけずに拡散してもらえるよう、若年層の SNS 映えも狙いたい。そのためにテラスに関しては、高級感のある写真映えするようなものにしたいと考えている。

小笹課長）狙いを絞ってはいない。道の駅でゆっくり休憩できる、気分をリフレッシュさせるという所を考えている。地区の説明会等でペットを休ませるスペースが欲しいという声もあり、遊水地のところでペットが遊べるようなことも考えている。設計では、花・汽車・山が見えるという眺望を活かした SNS 映えを狙っている。

田頭誠志会長）例えば撮り鉄なんかもイメージして？

笹岡係長）その層の人達に向けてもアピールすれば面白いかなと思う。

田頭誠志会長）年齢層のターゲットは特に決めていないけれども、インスタ映えする箇所が何か所がある、自ら探すということか。

小笹課長）いくつも、というよりはテラスからの眺望を一番に考えている。

田頭誠志会長）ペットと共に過ごせる部分は柵で囲うのか。

笹岡係長）水につかってしまうことを考えると、柵は設けず、ドッグスペースとして、飼い主の責任で犬を遊ばせられる場所として考えている。

田頭誠志会長）予算に「ペット足洗い場清掃」とあるが、ペットの足洗い場を作るのか。

笹岡係長）ドッグスペースの一部にペット足洗い場であるとか、用を足すところであるとか、そういったものを作ろうかという計画である。

田頭誠志会長）ペットを連れていてはなかなかホテルに泊まれないので、キャンピングカーのようなもので旅行しているという話を聞く。ペット連れの層に向けて、長距離移動で疲れたペットを癒すというようなアピールもできるかと思う。

松下敦委員）芝生広場が広いが、道の駅で買ったものなどは食べられるのか？

笹岡係長）食べられる。車を乗り入れるキッチンカーを集めたイベントなど、何にでも使えるように広場を多めにとっている。

田頭誠志会長）広場全体で飲食可能ということとなると、園内清掃費が緑林公園程度では厳しいのでは。

笹岡係長）それぞれがゴミを管理して捨ててくれたらいいが、それが無理となると園内清掃費に関しては見直しが必要になるかもしれない。

田頭誠志会長）観光客が増えると、小さな店でもゴミ箱は汚くなる。個々の管理に期待するのは無理じゃないか。クリーンというのが大事じゃないかなと思う。

笹岡係長）写真映えという狙いから考えると、綺麗ということが必須になってくると思う。

中平光高委員）入場料はどうか。

笹岡係長）入場料は取らない予定。

松下敦委員）管理は何人程度で行う想定か。

笹岡係長）現在はガーデニングの専門家一人と、それに対する作業員が二～三名で想定している。

松下敦委員）芝生が広いので芝生を刈るだけでもなかなか忙しいと思う。

栗原あゆみ委員) 夏の暑い時期や、冬の寒い時期には公園だけで人を呼ぶのは難しいのでは。道の駅、汽車、SNS 映え以外にも、土地の特性を活用して、収穫体験などこの土地ならではの体験もできたらいいと思う。高速延伸で失われる商機を少しでも取り戻すために、観光農園のような形で料金を取ったり、何時間以上の駐車は有料としたりと、そういう方法で予算回収できた方がいいかなと思う。

田頭誠志会長) これは一年中フルシーズンというイメージか。

笹岡係長) 時間を決めて、駐車場のゲートにカギをかける。キャンプイベントなども視野に入れているが、夜間の騒音も想定されるため現段階では時間を決めて利用してもらうとしている。

鈴木幸代委員) 日中の利用が主であれば、駐車場に木陰があれば嬉しい。

田頭誠志会長) 芝生広場の中に、シンボルツリー的なものはないのか。

笹岡係長) 高木も何本か植える予定。

田頭誠志会長) それがうまく活用できればいい。

村井洋平委員) 計画ができていの中で言いづらいが、SNS 映えが目的なら、ここまで大きなものを作らなくてもいいのではないかと感じる。費用が削減できれば、例えばあぐり窪川に体験施設をつくるとか、ほかにお金をかける余地があるのでは。花壇や芝生にすると維持費がかかるので、並木にするとか。すでにあぐり窪川に駐車場があるのに、駐車場を増やして車で埋まるのかという気持ちがある。遠方から来た人が、なにをきっかけにこの施設を知るのか。それがインスタ映えなのかもしれないが、もう少し訴えかける機能に特化したなにかがあれば。温泉とか収穫体験など、例えば移動動物園をここにもってくるのであれば、きっかけになるかもしれない。

田頭誠志会長) 遊水地あたりで移動動物園のブレーメンあたりを定期で開催したりとかすれば、口コミで広がったり、子供連れに対してアピールできるのかなと思う。

鈴木幸代委員) テラスでの滞在時間が一番多いと思うが、道の駅のレストランからのアクセスが良いと座りながら食べられて嬉しいのではないか。

笹岡係長) 道の駅とこの土地の間に水路が通っており、移動には橋をかける必要がある。道の駅の構造上、現在計画している橋の位置を変えるのは難しい。

田頭誠志会長) レストランや周りの店からケータリングするとか、テラスにメニューがあって電話注文したら持ってきてくれるのかも考えられる。

栗原あゆみ委員) 家族連れがターゲットの中に入ってくるのであれば、長距離を移動してきて疲れた子どもたちが遊ぶための遊具などがあればいいのかなと思う。

笹岡係長) 遊具は緑林公園に集めて整備するという考え方が町にあり、今回は遊具はなしという前提での計画である。

小笹課長) 簡単な遊具は設置したいと考えているが、大規模なものは難しい。

栗原あゆみ委員) 植えている木に登れるとかでもいい。四万十町での体験として、そういう体験があるといいと思う。木に登って上から見られたりすると嬉しい。

田頭誠志会長) 芝生と花壇だけで人を呼べるのかという問題がある。例えば、資料にある十川のツツジ園には、人は結構来ている。マスコミにも取り上げられたということもあるけれども、対岸の国道から見てもすごく綺麗。個人でやっているが、手入れもして、お弁当も準備したりと、定着しつつある。

そういう流れが出来ればいいけれども、そこは狙ってやらないと難しいのかなと。

小笹課長) 中途半端に作りたくはないが、管理費とのバランスが課題になる。花に全く魅力がないかという、魅力はあると思う。ただもっと強い魅力を持たせるために体験施設的なものをつくるとか、検討の余地はあるのかなと思う。

森副町長) 過去に遊水地のところに、菖蒲園を作っていたが、一日だいたい 50 人程度は来ていた。あそこに行ったら、この時期にはこういう花が咲いているという、しっかり情報発信していければ。

田頭誠志会長) 一年まるまるフルシーズンで行くなら、見頃カレンダーのような、1 月 2 月はこれが見ごろですよと、そういうものが必要なかなと思う。

笹岡係長) 花の種類を変えていくと費用がかかるので、できるだけ手間がかからない宿根草を中心としている。花が咲いていなくても楽しめる種類の花を選ぶが、それだけでは寂しいのでバラを植えて、コントラストで楽しんでもらうイメージで、管理費用を抑えた花園としていきたい。

小笹課長) ほかの花園を見ても、植え替えがかなり大変で、それをできるだけ排除した形で作りたい。バラは品種を選べば、お盆時期の一か月以外の時期は咲かせられるとのことなので、専門家を入れてやっていきたいと思う。

田頭誠志会長) 渋いような花壇はあまり見に来ないのではないかな。

栗原あゆみ委員) 花に詳しい人が花の管理をするということだが、見せ方のプロも入るといいのかなと思う。先日訪れた場所では、ここで何を見せたいかが、歩いているだけですぐ分かるような仕掛けができていた。写真を撮りたくなるポイントには額縁のようなものがあり、絵画のように写真を撮れる仕掛けなどがあって、短時間で結構狭いスペースでも楽しめた。SNS 映えを狙うのであれば、見せ方を知っている人が入ってくれた方が、花だけでも楽しいものができるのかなと思う。

田頭誠志会長) とにかく話題にならないといけない。

松下敦委員) 去年、景観と肥料用として、自分の畑にひまわりを植えたところ、観光の人が 1 週間で 50 人ぐらい観に来たことがあった。ただ自分の家からはずっと裏側しか見えなかった。そういうところも計算して植えないといけないなと感じた。

田頭誠志会長) 今回の施設だけでなく、十和地域の三島の菜の花など、連動して盛り上げていかないといけないのでは。大きな話になるが、四万十町から四万十市を抜けて黒潮町に行くルートや、四万十町から愛媛に抜けるルートなど、こんな面白いルートがありますよ、と。四万十町がルートの入り口、あるいは出口となるような、大きな流れのイメージが必要じゃないか。愛媛県では県で四国一周のルートを提案し盛り上げているが、四万十町でも一か所だけ、ということではなく、ルートを提案したほうがいいと感じる。

小笹課長) 一気には広がらないが、窪川では庁舎にプランターをおいて、十和では国道沿いに花を植える取り組みを行っていくようにしている。花で町全体を繋いでいくという考えはある。

富田局長) 三島の菜の花もだいぶ減ってきていて、ツツジ園も花桃についても継続は難しくなっている。今あるものをなんとか維持していく取り組みを行う必要もあるし、併せて国道沿いの荒れた植栽帯にボランティアで花を植えてもらう取り組みを少しずつ始めた。そういったことを、これから広げていきたい。

田頭誠志会長) 町も取り組みを広げていきたいとのことだが、やってくれている人のモチベーションも高くするために、見てくれているとか、コメントをもらうとか、町が取り組みを紹介・案内してくれているといったことも大事ではないか。そうすれば、よりきれいな花壇にしようとか、そういう取り組みを繋いで行こうということになるのでは。観光拠点をつくる流れで、点ではなく線として、ツ

ーリズムとして、線に乗せて誘客するということがいいのではないか。

笹岡係長) そういう情報発信の一つとして、今回この施設を整備しようということがある。四万十町には自然の見どころがいっぱいあると発信できるような施設にしていきたい。

田頭誠志会長) 最初にプランを観光客に提案しないと難しいと思う。練ってプランを立てて、こことここがあって、車で何時間といったルートを見せることが必要と思う。

鈴木幸代委員) 観光交流拠点施設に行くルートはこの二本の橋だけか。

笹岡係長) 橋を渡る必要があるため、この二か所だけ。

鈴木幸代委員) 観光交流拠点施設に行きづらい状態で、トイレと食べ物へのアクセスが容易じゃないというのは心配。使い勝手が良いということが大事だと思う。予算上厳しいのであれば、計画のどこかを諦めてでもアクセスを良くする方が、使いやすさの面でいいと思う。

笹岡係長) これ以外に通路を作るのであれば、道の駅の構造自体を変えていく必要がある。

小笹課長) 構造を変えとなれば費用が掛かりすぎるし、反対側にもトイレを作るといったことになっても、それもまた水道や浄化槽が必要となるため厳しいところ。

栗原あゆみ委員) ドッグスペースに行くには、駐車場から結構な距離があるが、芝生は犬も通れるのか。

笹岡係長) 芝生はペット可にする予定。

小笹課長) 道の駅のレストラン側に駐車すればあまり距離はなく行ける。

栗原あゆみ委員) 夏場の草刈りなどを考えると、規模縮小でもいいのかなと思う。規模を縮小し、見せ方にこだわって人を呼ぶほうがいいのでは。ドッグスペースは残しつつ、ほかのエリアをコンパクトにする方が見栄えが良くなるのではないか。

中平光高委員) ヤギを放牧して草を食べてもらうとか、乗馬体験ができるとか、生き物がいると子供連れ家族層の需要が上がるのではないかなと思う。動物たちが放牧されていると、のどかな雰囲気が出て四万十町の良さがでるのではないかな。

田頭誠志会長) 移動動物園では、ポニーに子供が乗れたりして結構人気がある。それを保護者が写真を撮っている。

笹岡係長) スペースはあるので、運用面ではいろいろできる。

松下敦委員) 草刈りは本当に大変だと思う。

田頭誠志会長) 交流センターに行ったお客さんが、「綺麗だったのでまた来ます」と言っていた。綺麗というのは、クリーンということ。それが大切だと思う。面積を少し削減して、質を維持して行くことも一つの手だと思う。

田頭誠志会長) ほかに意見はないか。なければ、この件についてはこれで終わりとする。

議事(2) これまでの議題についての現状報告

田頭誠志会長) 次の議事に入る。旧小鳩についてはこの推進協議会でもどういう活用方法があるのかと話し合っ、活用し始め、人気も出てきているところ。今後どう継続して行くのかといったところ

も、重要になるので旧小鳩の活用状況についての報告をもらい、委員から意見をもらえたらと思う。

伊藤主査) (資料 別紙1に沿って説明)

松下敦委員) このまま取り組みを継続していくとして、前も議論に上がっていたが駐車場はどうなるのか。

富田局長) 旧小鳩保育所は増水時の浸水リスク、施設の老朽化、侵入経路が非常に狭く、それを改修するとなると莫大な費用が掛かるため、町としては大規模な改修は行わないという大前提で、暫定的に三年ということで動いてきている。今後も施設を改修する方針にはならないと思う。一年契約を継続しながら活用していくことになるかと思うので、なかなか駐車場整備まではできないと感じている。

田頭誠志会長) 活用によって、いい雰囲気ができている。

富田局長) 元々の雰囲気もあるし、皆さんの取り組みが雰囲気をより作ってくれていると思う。取り組みへの評価はしているものの、整備等をするのは難しいと思う。

村井洋平委員) 図書館十和分館ができた後、現在の取り組みは十和分館で行うのかもしれないが、十和分館が建つ前に3年が終わった場合、取り組みを続けるのか、どこでやるのかも考えないといけない。他に場所がないのであれば、旧小鳩保育所で続けてはどうかと思う。

富田局長) 旧小鳩保育所続けるとなれば、一年更新での継続になるのかと思う。だボランティア人員の確保が課題に挙がっているが、そこも協議が必要かと感じている。

栗原あゆみ委員) 今はゆるくボランティアで手の空いているときに手伝うという気軽さがあるからこそ協力してくれている部分大きい。雇用となると、責任が大きくなるし、急なスケジュール変更などしづらくなるという声がある。とは言え、手が空いている協力スタッフがいない月もあり、ほぼ代表と副代表の2人で回す月も発生している。お金が出すほうがやってくれる人は増えるのか、ボランティアだからやってくれる人がいるのかは運営側としても悩みどころだが、継続的に関わってくれる人は切実に欲しい。

富田局長) 今後検討していく。

(そのほかの件について、行政側より現状の報告)

議事(3) 十和地域のまちづくりを進めるうえでの強みと弱み

田頭誠志会長) 次期のまちづくり推進協議会に向けて、意見をもらっておけば、スタート時のきっかけになるのではないかとこの題を上げさせてもらった。みなさんが考える十和地域のまちづくりを進める上での強みと弱みについてどんなことでも構わないので、案を出してもらいたい。

村井洋平委員) 会の進め方にはなるが、一度グループに分かれて話したことがあったが、そうすると結構みんなの意見が出た。出席率についても、ばらつきがあるように感じる。予算も時間もかかっているものなので、人の集め方や、意見が出やすいような工夫があればいいと思う。

田頭誠志会長) 単なるあて職にするのではなく、委員を選定する時にそのあたりも考慮できればいい。

村井洋平委員) グループで分かると世間話のような雰囲気で話ができるので、その仕組みだけを取り入れるだけでだいぶ変わると思う。

中平光高委員) 自分が十和地域で生活をしていて、夕方に川で鮎を捕ったり、自分で切ってきたヒノキで家をリフォームしたり、薪ストーブに使ったりというような豊かさを感じる。人口がどんどん減

っているなかで、そういう生活の豊かさをアピールできればいいと思う。都会から若い人たちにたくさん移住してきてもらうため、四万十町で生活するための術を身につける機会や場所を提供してあげて、四万十町での暮らしの豊かさを知ってもらえたら。
コンビニがないなど不便な面もあるが、楽しい面もある。基盤となる仕事は必要だが、それがあれば楽しく暮らせるのではないか。

田頭誠志会長) 町も移住定住についてはかなり力入れているとは思いますが、まだまだけど押し出すことがあるということだろうか。

中平光高委員) どんどん高齢者が亡くなっていて、地域の人が減って行って、十年後どうなるのだろうとすごく感じる。一人の負担がすごく増えてくるし、人が入ってこないで集落として成り立たなくなってくる。もっとたくさん人が来てほしい。

田頭誠志会長) 町内の出生率もかなり低くなっていて、移住定住がないと成り立たない。施設に入ったり、亡くなったりと、十和地域振興局付近でも住んでいる人は少なくなっているが、人口減で街に活力もなくなって、定住している人も居ないと言うのは各地区でも起こっている。限界集落というより、もう消滅集落に入っていると感じる。

村井洋平委員) 昭和地域のガソリンスタンドも無くなる。今は十川があるが、ガソリンスタンド以外でも同じで、そのうち買いたいものも買えなくなってしまう。役場としてはどのように考えているか。

富田局長) 住民が出資して会社を立ち上げ、ガソリンや日用品の販売をしているところもあるが、なかなか簡単なことではないと聞いている。何ができるのか、自分たちも常に考えていかないとけない。

村井洋平委員) 今やっている商店も跡継ぎがいればいいいけれど、いなければいずれは閉店してしまう。

富田局長) 現状では、移住政策をやって人口減少を緩やかにすることが精一杯ではないかと思う。

村井洋平委員) 都会の人が家庭を持っていく中で、家賃や生活が大変だと言う人は結構いると思う。そういう人たちが子供連れで移住してくれたら人口が増えると思うので、その需要と繋がれたら変わらと思う。次期のまちづくり推進協議会では役場の移住担当の人に来てもらったらいいかもしれない。住宅をいっぱい作ってもらっているけど、それだけじゃ足りないかもしれない。まだ何かできることがあるかもしれない。

田頭誠志会長) 先ほど意見のあった豊かな四万十ライフといったことを打ち出したりして、ファミリー層がどんどん町に入ってくれば、少しは活気が出てくるし、人口維持は難しいにしても緩やかに減少するという形には持っていける。その中で灯りが見えてくることもあるかもしれない。これは交流人口的な部分になるが、四万十高校は都市部からの生徒が多く、実際、一年生は窪川高校より四万十高校の生徒数が多くなっていて、それを絡めてもいいのかなと感じる。以前のように、四万十高校にしか行けないというようなイメージではなく、自然の中にある高知県の四万十高校を選択してくるといって生徒が増えてきた。寮もいっぱいなのでそのあたりも町にも協力してもらえたら。

富田局長) 来年からは地元の生徒が、がくと減ってしまうので、そこにも力を入れていく必要がある。自分が思っているのは、そのアピールの仕方に加えて、飛びぬけた取り組みをしないとけないということ。それから、本当の十和地域の強みは何なのかということを見つけていくことじゃないかなと思う。西土佐地域などの近隣市町村とは違った本当の強みを見つけていかないとけない。そうといったことも、これから考えていかないとけないと感じる。

松下敦委員) 空き家はあるし、空き家を探している人もいるが、貸してくれる空き家がない。ボロボロの空き家でさえ売らずにある。たまに戻ってくるために置いているが、普段は人が住んでいない家も多い。このあたり役場でできることは無いだろうか。固定資産税でも、住んでいけば安くなるとか、貸し出すか売るような方向に持っていければ。

富田局長）そういうところでも飛び抜けた取り組みが必要になってくると感じている。

村井洋平委員）移住したいという人が来ても、家が見つからないから他市町村へ流れてしまう。ここでストップできれば。

田頭誠志会長）自然として十和にある強みもあるけれど、それだけではこれから難しいので、強みをアップする行政の力が求められる。行政的な支援を加えて、それをアピールして人を呼び込む。弱みをカバーするというよりも、強みをどんどん強くしていくという、積極的な取り組みをして行くことが必要になってくるだろうと思う。次期委員でその辺りを話してもらえれば。

●十和地域振興局長挨拶

田頭誠志会長）本日はこれで閉会とする。